

自然観察会報告
御前崎『磯の自然観察会』報告
佐々木彰央



観察を開始する参加者



磯の生き物を探す

5月17日の日曜日に御前崎灯台近くの磯で観察会を実施しました。

参加者は大人子供をあわせて19名でした。また、ふじのくに地球環境史ミュージアム研究員の渋川浩一先生にも参加をしていただき、講師は東海大学の高見宗広先生にお願いしました。

当日の天候は快晴で、風も弱く、磯採集を行うには非常に恵まれた1日でした。参加者には、大潮の干潮時刻付近の10時30分に集まってもらい、磯採集を1時間程度行いました。参加者には前回(2013年5月)の観察会で採集された魚類や甲殻類等の写真が掲載された資料を配布し、自身が見つけた生き物が一体何かを考えながら、磯採集を行ってもらいました。

参加者と共に磯の生き物を探してみると、岩場の近くではナベカやカゴカキダイの稚魚が泳ぎまわり、ヤドカリの仲間が貝殻の奪い合いをしていました。岩の隙間にはアカウニやムラサキウニが挟まるようにしてへばりつき、深場の潮だまりではクジメやウツボ、タコが観察されました。

今回の観察会では魚類が約15種類、甲殻類が約8種類も採集され、他にもアメフラシやウミフクロウ、ヒラムシなど数多くの生き物が採集されました。

採集終了後、高見先生から魚類や甲殻類の名前や特徴などについての説明をしていただきました。また、ウニやヒトデなどの棘皮動物については、東海大学出身で、今も頻りに静岡の海



高見先生の説明を聞く参加者

でダイビングによる研究をしている今泉久祥さんから、ウニやヒトデに寄生する小型の巻貝などについての説明をしていただきました。参加者からは分類に関する質問の他、どの魚やウニがおいしいのかなど、数多くの質問があり、にぎやかな雰囲気のまま、観察会を終えることができました。最後に、当NPO事務局から参加者にウミウシフィギュアを配り、磯の観察会のいい思い出として、自宅に持ち帰っていただきました。

おわりに、2013年に実施した御前崎の観察会と今回を比較して、以前、数多く採集されたアナハゼやニシキベラは今回採集することができませんでした。一方で、タカノハダイが新たに採集されたので、次回の観察会に向けて資料を更新していきたいと考えています。